



1 鹿児島県の概要

鹿児島県の概要
だっ！

(1) 地勢

本県は、わが国の南西部、九州の南端に位置し、その広がりには南北約586km、東西約267kmにわたり、九州本土に属する薩摩半島及び大隅半島のほか甕島、種子島、屋久島、トカラ列島、奄美群島等の島々から成っており、総面積は約9,186km²あります。

(2) 人口

県の総人口は、昭和30年の約204.4万人をピークに減少を続けてきました。昭和48年からは増加傾向に転じ、昭和60年には約181.9万人まで回復しましたが、その後は減少に転じ、令和2年の国勢調査では、約158.8万人となっており、人口全体に占める65歳以上の割合も3割に近く、少子高齢化がすすんでいます。

また、県内人口が減少するなか、県庁所在都市鹿児島市には、県全体人口の約37%にあたる約59万人が住み、霧島市の約12万人や鹿屋市の約10万人を大きく上回っており、一極集中型の地域構造が見られます。

図1-1 鹿児島県の位置

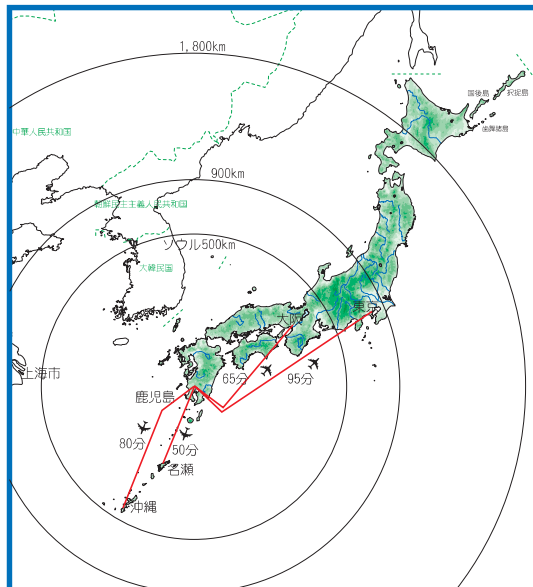


図1-2 鹿児島県の県域

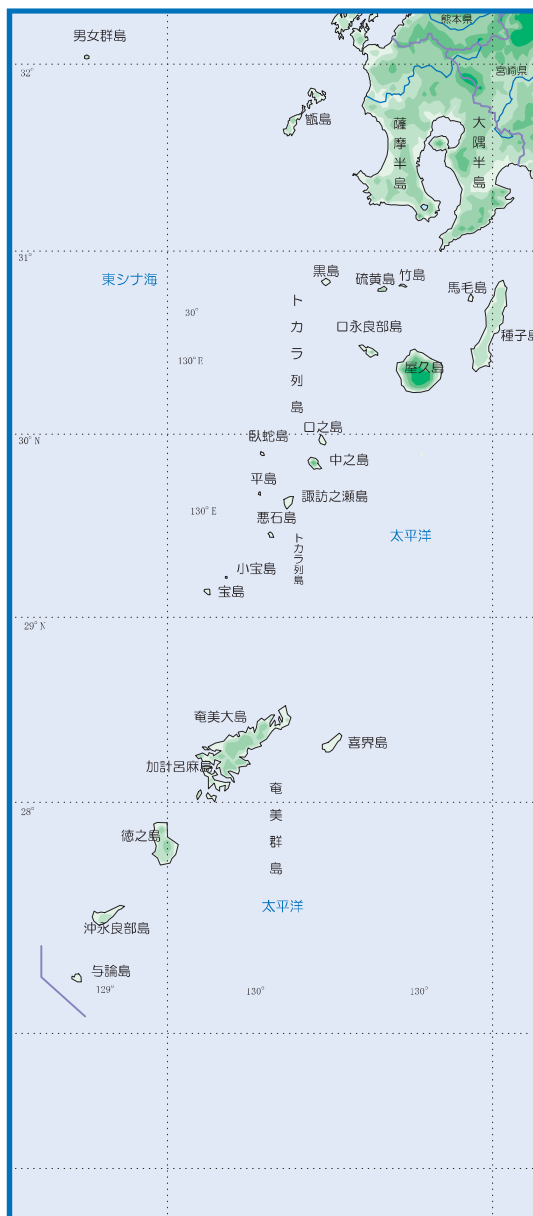
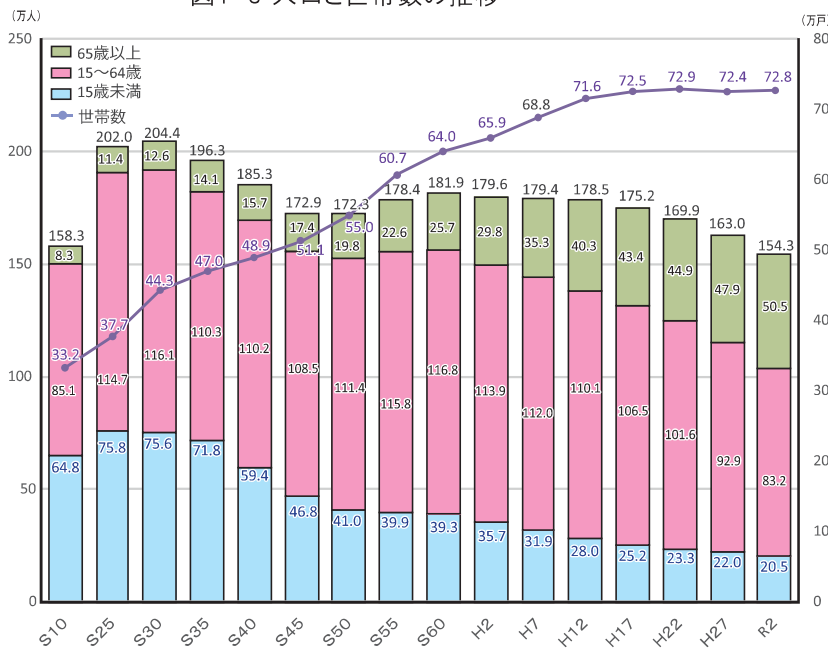


図1-3 人口と世帯数の推移



※データ：国勢調査

(3) 産業

本県は、昭和40年代以降高い経済成長を遂げましたが、県民一人当たりの所得は、依然として低水準となっています。

産業構造を見ると、農業県としての特質から、全国に比べ、第一次産業の占める割合が高い傾向にあります。また第三次産業は、全国的なサービス産業の進展の中で、相対的に高い構成比を示し、行政・金融・医療・教育・文化など高次の都市機能を有する鹿児島市などでより高い割合を示しています。

図1-4 1人あたり所得と格差

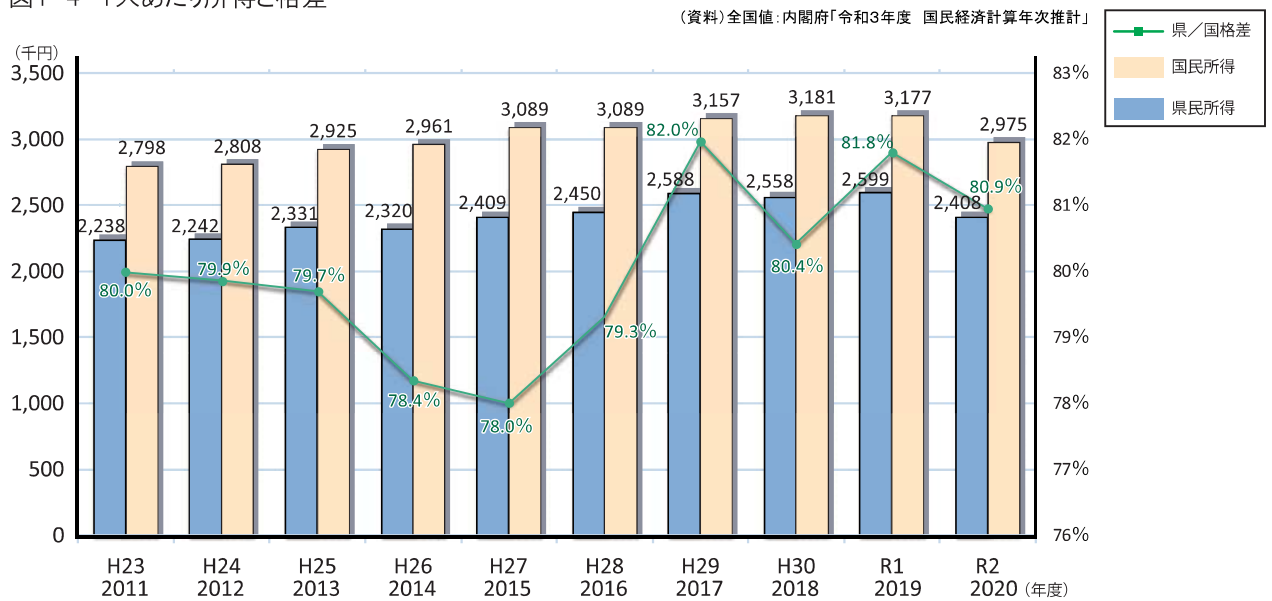


図1-5 産業構造の推移

